令和７年（２０２５年）

斐伊小学校は**開校１５０周年**を迎えます

斐伊小学校は、明治８年（１８７５年）に開校しました、学校だより「ひいの子」では、開校１５０周年にちなんだ記事を紹介していきます。

１５０周年に寄せて

校章について

卒業式や入学式には必ずステージに設置されている校章旗。斐伊小学校の校章が何を表しているのか、ご存じの方もたくさんいらっしゃることと思いますが、今回はその校章について、「斐伊小学校１００年の歩み」に書かれていることを紹介します。

明治３３年１０月２６日校旗が制定された。その意匠は斐伊の代表的な史跡八本杉を象ったものである。学校沿革誌にー

日ノ丸ニ八本杉
国音　斐ハ日ニ相通ズ
八本杉ハ本村有名ノ旧跡ナレバ日ノ丸ノ周囲ニ八本杉ヲ添フ
縁由概略（古事記ニヨル）
須佐之男命出雲国鳥髪（仁多郡鳥上）ノ地ニ降リ啼哭（大声で泣く）ノ声アルヲ尋ネ（探）妖雲ノ起ルヲ逐ヒ八岐大蛇ヲ御退治ノ時深慮遠略此地（八本杉のところ）ヲ以テ仮ノ宮居トナシ稲田姫命ヲ茲ニ隠匿（かくす）シ玉ヒテ遂ニ大功偉勲ヲ立テ給ヒキ而シテ蒼生（人民）ヲシテ再ビ鬼神妖邪ノ憂ナカラシメンコトヲ祝シ大蛇ノ骨角ヲ表シ尊親ラ（自ら）ハ株ノ杉ヲ栽植シ玉フ故八本杉ト云フ

と記されてある。

現在の校章旗

（「斐伊小学校１００年の歩み」から、内容を抜粋）

「斐」の文字を囲んでいるのは八本の杉の木です。全体が丸くデザインされているのは太陽（日）を表しているようです。

思い出のギャラリー

＜昭和３９年　山陰豪雨災害の時の被害＞

昭和３９年７月１８日、朝から降り始めた雨はやむ間なく夕方まで激しく降り続け、がけ崩れ、冠水など多くの人が被害にあいました。斐伊小学校の裏手の沢も崩れ、当時の炊事場、教員室の一部、渡り廊下などが流れ込んだ土砂によって全壊、半壊の被害にあいました。その後、この沢には砂防ダムが作られました。

この写真は、現在進められている、既存の砂防ダムの強靭化を図る工事の様子です。昨今の異常気象の事を考えると、こうした対策は大変ありがたいことです。